

口腔癌

がんと言えば日本人の死亡原因のワースト 3 に入る致死率の高い病気の 1 つですが、その中で比較的日本人には少ないと言われる口腔がんは、全悪性腫瘍の約 1~2%と言われ、口腔がんはその発症場所によって「舌がん」(写真 1) や「歯肉がん」(写真 2)、「口腔底がん」、「頬粘膜がん」(写真 3)、「硬口蓋がん」というものがあります。また、口腔がんは早期発見できればその生存率は 90%と非常に高い確率でもあるのですが、だからといって油断できる病気ではありません。

写真 (1)



左側舌がん

写真 (2)



右側上顎歯肉がん

写真 (3)



左側頬粘膜がん

口腔がんの症状はどんなものなのでしょうか？他の臓器に発症する癌とは異なり、口腔がんは発症する場所からも自分の目で見て確かめることが可能なはずなのですが、それでも気づきにくい癌とされています。それは、口腔がんの初期症状には痛みや出血がなく、自覚しにくいことと共に、しこりに気がついても口内炎等と勘違いし、放っておくことが多いためであると考えています。口腔がんの症状としては、まずは上記のように、口内炎とも思えるようなしこりです。しかし口内炎の場合はしこりが柔らかいのに対し、がんの

場合は硬いのである程度見分けがつきます。特に舌がんの場合、舌の真ん中や先端というよりも歯の当たりやすい両脇の部分にできやすいのが特徴ですので、よくチェックしてみてください。またがんの場合、表面に潰瘍やびらん（口の粘膜の表面にある上皮が剥がれたり傷ついたりしている状態）が見られることが多いです。そして口内炎であれば塗り薬などで長くても2週間以内には治るはずですので、2週間以上経っても治らない場合はがんの疑いもあります。更に進行がんであった場合にがんが大きくなって神経を蝕んだり痛み物質を分泌したりすることがあり、そうなると口腔がんでも痛みが出てきます。

口腔がんの治療は、基本的には外科的療法、つまり手術が主な治療方法となります。手術によって口腔がんとなっている部分を切除するわけですが、口腔がんの病状が進行すると手術と共に他の治療方法（抗がん剤、放射線治療など）を組み合わせる治療を行います。切除の範囲が広がるため、嚥むことや飲み込むこと、話すこと、呼吸することなどの生活に重要な要素となることに影響がでてしまいます。そのため、出来るだけ早期に発見し治療することにより生活の質をおとさないことが大切です。口の中に異常を感じたら直ぐに治るだろうと自己判断せず、かかりつけ歯科医院で診察してもらって下さい。言い尽くされている言葉ですが、「早期発見、早期治療」！！です。

（なお、掲載しております写真は当科で治療を行った患者様のものです。写真の掲載にあたりまして患者様にその主旨をご説明したところ、快く了承を頂きましたことを申し添えます。）